

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社イッセイ		
事業所名	グループホーム平和 (第1ユニット)		
所在地	静岡市清水区西久保1-13-26		
自己評価作成日	令和3年 12月 29日	評価結果市町村受理日	令和4年 2月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和4年 1月 18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設してから15年になろうとしています。地元の住民が立ち上げ地元との関わりを大事にしてきました。代表者は地の神様が祭ってある神社の総代を長年ボランティアで活動しています。そのおかげもあり地元の住民達との関係は良好でホーム運営にも協力的です。ご利用者も地元の方が多くいらっしゃいます。「認知症になっても住み慣れた町で最期まで暮らしましょう」認知症になっても尊厳のある介護を心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社社長がボランティアで地元神社の総代を長年務めており、スムーズな地域交流や近隣住人との良好な関係構築に繋がっている。毎週水曜の音楽回想療法では、歌や言葉から過去の記憶を呼び戻したり季節を感じたりして、脳の活性化に繋げている。毎月のお便りに利用者個々の写真を載せたり、避難訓練の様子や介護記録と献立表の写しを添えたりして家族の不安解消に務めている。見えない日常の様子や身体状況を介護計画等の書面で詳細に知らせている事業所への感謝の言葉が家族アンケートより確認できた。毎年の外部評価受審を定例としており、職員全員で項目を分担して自己評価に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、代表者が開設前より地域に暮らしており神社の総代も長年勤め地域に社会貢献していることを職員に伝えています。	電光掲示板で事業所理念「住み慣れた町で最後まで人として暮らしませんか？」を地域に発信している。毎年の自己評価や日常の支援について口頭で話すのではなく、職員個々が言語化している。考え方や実践内容の把握、また振り返りに役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に加入し今年度は班長として組合の仕事で近隣の住民との関わりがあります。	表立った活動や交流は自粛中である。長年培ってきた近隣住民との信頼関係により、利用者の性格や家庭環境等について情報提供がある。利用者の無断外出等が発生した場合、近隣店舗等も協力的な対応を約束してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に暮らす認知症高齢者への支援についてケアマネージャーや民生員と話し合いをもつことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議自体が予定通り実施されていません。先日の運営推進会議では運営状況等をお話しさせていただきましたが助言をいただくまでには至っていません。	毎年の外部評価受審により、年間4回を目途に開催している。堅苦しさを払拭する意図で地域交流会と称し、地域にも浸透している。地域住民、地区民生委員、自治会副会長、地域包括支援センターの出席があるが、家族の出席は少ない。	市担当課への議事録の提出が途切れているが、毎回送付することが望ましい。利用者家族全員に議事録を配布し、地域交流や話し合いの内容を平等に開示していくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は地域包括支援センター宛てに地域運営推進会議の開催や書面での活動状況は送りましたが市町村担当者とのかわりはありませんでした。	市担当課との関係性が希薄になっているが、介護相談員派遣の現状と来年度の実施確認をきっかけとして関係性の復活に務めたい。近隣道路整備等に関して確実な情報収集をするなど、行政の仕組みの把握に繋げていきたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止についての見直しは行っています。日々見過ごされてしまうときもあり事例を上げて職員と話し合いをしたり書面でそれぞれの拘束禁止への思いを書きいただいています。	職員の勤務状況により委員会の実施が困難な状況にあるが、同等の議事内容について個々が実施状況や意見等を書いて提出している。委員会の議事録と違い、個々の理解度や考えを詳細に把握できる点をメリットとして捉えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についてのガイドラインがあり定期的に事例をあげ職員と話し合いをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用しているご利用者がいます。日頃より後見人制度について職員への説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は書面でご利用者の身元保証人又は引受人に改定された内容について説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望は毎月のお便りに書き添えるようにしています。ご利用者の意見や要望は日々の暮らしの中で職員が聞き取り要望が叶うような提案をだしあったり地域運営推進会議での話題とすることもあります	毎月のお便りで事業所の状況、利用者の日常がわかる介護記録や献立表の写しを郵送しており、意見や要望は面会時や電話で伺っている。地域交流に関する事項が盛り込まれた、運営推進会議の議事録は、家族に送付していない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、ボーナス支給日に支給される職員と面接し日々の仕事や要望等を聴くようにしている。管理者は、日々現場に赴き職員の意見や提案に耳を傾けるようにしている。	現場の状況を把握している管理者がサポートして、社長との個人面談を行い多角的な視点で話を聞いている。面会者の受け入れに慎重な職員が多く、今後も社会情勢に合わせた受け入れ方法を検討し、職員の賛同と家族の理解を得ていく方針である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭事情を考慮し勤務を調整しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験職員にジョブ評価カードを作成してあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務者研修を受けている職員は同業者と交流しながら研修を受けていました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人の生活歴、ご家族の要望をお聞きし今困っていることを把握し解決に向けた暫定プランを作成し入所時に説明同意をもらっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの同意を頂くにあたり事前の聞き取りを行っています。コロナ禍では電話での聞き取りや玄関先での面接になってしまいました		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院からの入所の方が入所直前に妻が死去しました。入所とともに妻の葬式となりコロナ禍でしたが葬儀に他県からの身内の受け入れや外出に応じました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	車椅子で過ごされているご利用者ですが、周囲の気になるご利用者への気配りを職員に助言している姿を見受けます		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で猛威を振っている中でもご家族に1週間に1度の面会をしていただくことでご本人の気持ちの支えになっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会や外出は難しいです。ただし時折訪ねてくるご友人を迎える時の満面の笑みが印象的なご利用者がいます。帰られた後は次につながる言葉かけをしています。	近隣住民で民生委員の方の同級生の親が入居されており、地域交流会参加の際には毎回声を掛けて気遣っている。家族の面会希望には社会情勢に合わせてできる限り応じており、子供の嫁から手紙が届く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者1人、ひとりのコミュニケーション能力を見極め同じテーブル、席順等を配慮し談笑できる環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設当初に入所し亡くなられたご利用者のご家族が今でも1年に1回顔を出してくださり近況を報告して下さいます。時に相談を受けたことがあります		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室に籠りがちな鬱の既往のあるご利用者が居室内で「死にたい」「死んじゃう」を繰り返し訴えています。職員の声掛けや誘導でフロア一席で過ごす時間を増やしていきました。日によってですが最近では洗濯物を畳んでくださるようになりました。	日常生活に寄り添いながら話を聞き取り、言葉や行動等から本音の把握に努めている。介護日誌の記録に家族の意見や近隣住人からの情報等も加えて、本人の気持ちや意向を察し、介護計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者同士の会話の中に職員も加わり談笑している中でご利用者の好みや生活スタイルを聴きだし必要なことは情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	車椅子で過ごされるご利用者でテーブル席で居眠りが目立つようですと居室で休んでいただいています。熱が出たり体調が思わしくないようなご利用者はご本人の意向もあり静養を主体で一日を過ごされます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメント、モニタリング、課題抽出は職員からの情報やご利用者の希望も取り入れながらサービス計画書を作成しています。コロナ禍で面会も思うようにできずお手紙で状況報告や課題をご家族にお知らせする様にしています。	管理者が利用者全員のモニタリングと再アセスメントを短期目標に合わせて実施し、介護計画作成も担当している。モニタリング内容は職員全員の情報や家族の意見を集約し、短期6か月長期1～2年(随時)で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子は介護記録に毎日記入しています。ケアの実践、結果、気づきは短期目標終了時期に職員に目標、ケアの内容、気づき等を記入していただく用紙があります。記入が出尽くしたところで介護計画の見直しをしています。記入してもらっただけでなく聞き取りも行います		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染が猛威を振っている時期にご利用者の家の売却があり他県から甥や不動産屋、司法書士等の面会を許可しスムーズに手続きができて入所継続が可能となったご利用者がいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に住む民生員さんで入居されているご利用者の子供さんと同級生です。運営推進会議の際に来所されるたびにご利用者に声をかけてくださいます。ホームに入居されている存在感をアピールできています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は内科の往診医に定期的に往診していただいている。歯科医は口腔内のトラブルを抱えているご利用者に限り往診又は受診の形をとり歯科の相談にものっていただいています。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、4週間に1回の定期往診を受診している。看護師である管理者が全員の健康状態を把握しており、協力医と24時間連携している。看護師の日頃の適切な対応が利用者、家族、職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり日々の健康管理については 介護職員と連携、異常時の対応や報告については訓練されている介護職員が多くなります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	成年後見を利用されている人工肛門のあるご利用者がいました。入所中2回の緊急入院歴があり2回目は腸穿孔で緊急手術となりました。人工肛門が2つになりイレウスを繰り返しているが再入所の要請を頂きました。しかし食事療法等の管理に限界があり他療養施設への転所となりました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設はご利用者やご家族が望むであれば最期まで此処で過ごしていただいています。入所時に重度化した場合の方針についての説明をいたします。そして入所契約と同時に書面で同意を頂いています。地域運営推進会議に出られている地域の方たちは周知しています。	入居年数が長い利用者は、不安定期・低下期を経て自然な流れで看取り期が訪れている。看取り介護はあくまでも日常生活のケアであり、終末期医療(ターミナルケア)とは異なることを家族に再確認し、同意を得ている。医師・本人・家族・職員が同じ意識で看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については殆どの職員が対応できています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を行っています	年2回防災訓練を実施し、直近では夜間想定で職員2人が利用者6名の救助に要した時間を確認している。生活用水はスプリンクラー設備で対応可能で発電機の用意もある。今後は発電機の使用の確認等を訓練に加えていく。備蓄管理は管理者が行い、賞味期限等を確認している。	管理者不在時に備えて職員全員が備蓄品の状況を把握していることが望ましい。災害時に慌てないように備蓄品について共有し、リスト内容の確認等を交代で行う等の取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室時は声を掛けて入るようにしています 入浴介助中に立ち入りは必ずノックをして入室の可否を確認してからにしています	利用者の発言を途中で遮らずに、傾聴に努めている。今から何をするのか、なぜそれを行うのかなど、行動前の説明を丁寧に行っている。入浴時に更衣室の鍵を閉める利用者に対し、羞恥心に配慮しながら救出できる体制で見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室内にトイレトペーパーを大量に持ち込んでしまうご利用者がいます。毎日ポケットのなかにも大量に詰め込んであります。片付けたいとお話したら「これは大事な物だから」との答えに集めたペーパーを透明の袋3分の2程度の量ほど入れて枕元や筆筒の上に置くようにしました。散乱していることはなくなりました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お1人おひとりのペースは乱さないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着換えをするときはお1人ひとりの意思を尊重し服選びをしています。数枚しかなくてもご自分のお気に入りの服を着回しているご利用者がいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フローテーブル席で野菜の皮むき、カットや出来たおかずの盛り付けもおこなっています。ご利用者には皮むき、野菜のカットを頼んでやっていただいています。	タンパク質を取り入れた献立に拘り、油分過多にならないように前後の献立でバランスを取っている。調査当日には麺のだしの匂いが食欲を誘っていた。自ら食器洗いを手伝う利用者は、2度洗いが不要ない状態に仕上げることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の咀嚼、嚥下状況に応じた食事の形態、刻みの程度、トロミの利用をしています。現在、食欲はあるのですが、今の形態では誤嚥しやすく形態を崩さざるを得ないご利用者がいます。食欲はあるので大盛に量を検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員行います。ご利用者ごと口腔の状況によっては歯間ブラシ、ハミングッドハブラシを使っています。歯周病に近いご利用者は歯科医の勧める洗口液でうがいしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表があります。1人ひとりの排泄状況をチェックし定期的に声掛け、誘導しています。	高齢化に伴い徐々に自立度の低下がみられるが、個々に合わせて定期的な声掛け誘導を継続している。下剤を調節しながら、適切な排泄状態を維持できるように、情報を共有して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	吞める水分の工夫(紅茶、ココア)、個人購入ですが嗜好品としてコーヒーやジュース類を出したり食事では繊維の多い煮物を出します。牛乳からヨーグルトを作成し昼食後のデザートとしてお出ししています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日に声をかけ時間の約束をしているご利用者がいます	週3回午後に、重度の利用者から順番に各ユニット3～4名程度が入浴している。立位が困難な利用者には、管理者と一緒に入浴している。女性職員への配慮として、男性利用者の介助は男性職員のみ行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動量の多いご利用者へは昼食後休息の声掛けをします。乾燥時期、乾燥気味のご利用者の居室には加湿器をセットしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便のコントロールが付かず少量ずつ頻回に排便のあるご利用者の止痢止めを定時薬で内服しましたが排便が止まったら看護師に報告するようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	七夕かざり、ハロウィン、クリスマスの飾り付けを職員とともにしている姿が楽しんでいらっしゃる印象を受けました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では外出制限があり入所当初に妻の葬儀に喪主として参列された日があったくらいです。普段は好天の日にはマスクを着用して15分くらい散歩に出掛けます。	高齢重度化に伴い、筋向いのスーパーマーケットへの買い物も職員だけで行くようになってきている。事業所周辺には整備を要する道路があり、安心して散歩ができない状況にある。暖かい時季には中庭に出て、日光浴を兼ねてお茶をすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対しての執着が酷く失くした、盗られたということでご利用者間で周囲を巻き込むトラブルになります。お金を所持しているご利用者はいますが使えるような支援はしていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所前1人暮らしのご利用者です。相手方に毎夕方5分おきに電話をかけていました。入所当初は、電話を掛けたがりでしたが、相手のことを考えて「業務用で今使えない」旨の説明を繰り返しました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにタペストリーを替えたり七夕飾りやクリスマスの飾り、誕生日お祝いの写真を壁に貼り回想法に役立てています。	季節のタペストリーは居間に飾り、利用者が折り紙で制作している。節分の鬼の次はお雛様である。中庭には毎年クリスマスに赤いポインセチアが咲き、夏には自家菜園のキュウリやトマトを食している。換気は日に2回、消毒は適時行っている。床暖房で足元は常に快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーは広く気の合ったご利用者同士が同じテーブル席で談笑したりソファ席にすわったり、居室で寝転んだり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍で入所されたご利用者はご家族の立ち入りや持ち込みには限界がありました。コロナ禍以前のご利用者のご自分の使っていた歩行器を持ち込み安定した移動をされています。	備品として折り畳みベットの用意があるが、介護補助等の必要性に応じて介護ベットを勧めている。各部屋入り口に表札代わりの暖簾を下げ、個々の状態に合わせて長さを決めている。屋下がりに、自室で休息をとる人やお気に入りの塗り絵に没頭する人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を自走されているご利用者は居室からトイレの移動は壁についでいる手すりを利用されています。車いすから降りて独歩で移動されています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社イッセイ		
事業所名	グループホーム平和 (第2ユニット)		
所在地	静岡市清水区西久保1-13-26		
自己評価作成日	令和3年 12 月 29 日	評価結果市町村受理日	令和4年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 1月 18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設してから15年になろうとしています。地元の住民が立ち上げ地元との関わりを大事にしてきました。代表者は地の神様が祭ってある神社の総代を長年ボランティアで活動しています。そのおかげもあり地元の住民達との関係は良好でホーム運営にも協力的です。ご利用者も地元の方が多くいらっしゃいます。「認知症になっても住み慣れた町で最期まで暮らしましょう」認知症になっても尊厳のある介護を心掛けています。
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、代表者が開設前より地域に暮らしており神社の総代も長年勤め地域への社会貢献を職員に伝えています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に加入し今年度は班長として組合の仕事で近隣の住民との関わりがあります		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に暮らす認知症高齢者への支援についてケアマネージャーや民生員と話し合いをもつことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議自体が予定通り実施されていません。先日の運営推進会議では運営状況等をお話しさせていただきましたが助言をいただくまでには至っていません		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年は地域包括支援センター宛てに地域運営推進会議の開催や書面での活動状況は送りますが市町村担当者とのかかわりはありませんでした。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止についての見直しは行っています。日々見過ごされてしまうときもあり事例を上げて職員と話し合いをしたり書面でそれぞれの拘束禁止への思いを書いていたいただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についてのガイドラインがあり定期的に事例をあげ職員と話し合いをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用しているご利用者がいます。日頃より後見人制度について職員への説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は書面でご利用者の身元保証人又は引受人に改定された内容について説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望は毎月のお便りに書き添えるようにしています。ご利用者の意見や要望は日々の暮らしの中で職員が聞き取り要望が叶うような提案をだしあったり地域運営推進会議での話題とすることもあります		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、ボーナス支給日に支給される職員と面接し日々の仕事や要望等を聴くようにしている。管理者は、日々現場に赴き職員の意見や提案に耳を傾けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭事情を考慮し勤務を調整しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験職員にジョブ評価カードを作成してあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務者研修を受けている職員は同業者と交流しながら研修を受けていました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人の生活歴、ご家族の要望をお聞きし今困っていることを把握し解決に向けた暫定プランを作成し入所時に説明同意をもらっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの同意を頂くにあたり事前の聞き取りを行っています。コロナ禍では電話での聞き取りや玄関先での面接になってしまいました。コロナ禍前はご自宅や病院に面談に伺いご要望等聴きました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症夫婦で夫が入所した例です。1人息子は東京在住です。認知症の夫は心不全、前立腺がんがあり救急搬送されましたが暴れて治療を拒否したため帰宅しました。介護者がいないため夫のみを緊急で入所、コロナ禍での県外流行地からの息子さんとの入居契約を行いました。フローアへの立ち入りは許可できず写真を提供しました		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	妄想が行動化し徘徊とともに不安の訴えが続くご利用者の話し相手になってくださるご利用者がいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	看取り期に入ったご利用者がいます。ご家族との触れ合いが生きる気力になっています。娘様の居室への面会を感染対策をとりご希望される日にきていただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	娘が2人県外に在住し一人暮らしのご利用者のもとに入所後、旧友が訪ねてきてくださいます。コロナ禍なので面会もままならない現状があります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者1人、ひとりのコミュニケーション能力を見極め同じテーブル、席順等を配慮し談笑できる環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設当初に入所したくなられてご利用者のご家族が今でも1年に1回顔を出して下さり近況を報告して下さいます。時に相談を受けたこともあります		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御自分の意思をはっきりと伝えられる方は思い通りに過ごされています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にご利用者の生活歴を十分聞き取り職員に書面で情報を知らせ周知してもらっています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にサービス内容に見直しを行っています。日中の過ごし方、夜間の様子の把握は介護記録や業務日誌から職員が把握できるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメント、モニタリング、課題抽出は職員からの情報やご利用者の希望も取り入れながらサービス計画書を作成しています。コロナ禍で面会も思うようにできずお手紙で状況報告や課題をご家族にお知らせする様にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子は介護記録に毎日記入しています。ケアの実践、結果、気づきは短期目標終了時期に職員に目標、ケアの内容、気づき等を記入していただく用紙があります。記入が出尽くしたところで介護計画の見直しをしています。記入してもらっただけでなく聞き取りも行います		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍での入居生活の中で高齢重篤化してきたご利用者のご家族の面会希望の話し合いが行われました。フロアの他ご利用者に接することなく居室を訪問し面会できる配慮をいたしました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症高齢者の夫が入居しています。いままでの暮らし振りはご利用者から聞き取りは困難ですが近隣住民がご利用者の若い頃の話や近所と疎遠である情報を頂きました。近隣住民宅の高齢者も当施設に入居されているので来所のたびに気にかけてくださいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は内科の往診医に定期的に往診していただいている。歯科医は口腔内のトラブルを抱えているご利用者に限り往診又は受診の形をとり歯科の相談にもものっていただいています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり日々の健康管理については 介護職員と連携、異常時の対応や報告については訓練されている介護職員が多くなります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したご利用者様はいませんでした		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設はご利用者やご家族が望むであれば最期まで此処で過ごしていただいています。入所時に重度化した場合の方針についての説明をいたします。そして契約と一緒に書面で同意を頂いています。地域運営推進会議に出られている地域の方たちは周知しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については殆どの職員が対応できています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	車椅子を足漕ぎ自走し妄想に駆られ不安定なご利用者がいます。徘徊中は否定せず声の掛け方には注意をしています。声の掛け方ひとつで気持ちが安定されます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	任意後見人がついているご利用者がいます。身内がなく遺言の作成を希望されていました。最近、認知症が進んできて自己決定する力があやふやなところがありました。任意後見人に相談しコロナ禍ですが公証役場から公証人が来所を快諾、先日、公証人と面談し遺言書作成にこぎつけました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お1人おひとりのペースは乱さないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着換えをするときはお1人ひとりの意思を尊重し服選びをしています。ご自分のお気に入りの服を着回しているご利用者がいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声を掛ければ台所に入って食事の支度を手伝ってくださるご利用者がいます。食後は自ら台所に入り汚れた食器を洗っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の咀嚼、嚥下状況に応じた食事の形態、刻みの程度、トロミの利用をしています。水分がなかなか摂れないご利用者は甘いジュース類を種類を替えながら購入し飲んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員行います。ご利用者ごと口腔の状況によっては歯間ブラシ、ハミングッドハブラシを使っています。歯周病に近いご利用者は歯科医の勧める洗口液でうがいしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表が作成されてあります。1人ひとりの排泄状況をチェックし定刻に声掛け、誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	呑める水分の工夫(紅茶、ココア)、個人購入ですが嗜好品としてコーヒーやジュース類を出したり食事面で繊維の多い煮物を作っています。牛乳からヨーグルトを作成し昼食後のデザートに出しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	他者に入浴の姿を観られたくないご利用者は脱衣室にカギを閉めての1人だけの入浴をさせていただいています。脱衣室の出入りできるドアは2つあり1つは施錠できないようになっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときに休み起きたいときにフロアに出て来られるご利用者がいます。フロアに出て来られた時は声をかけてご本人の希望をお聞きしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便のコントロールが付かないご利用者には緩下剤をランダムに飲んでいただき排便の様子を観ています。排便がゆるかった場合は看護師に報告が来ます。看護師は当日の緩下剤内服を止めて下痢に傾かないようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	七夕かざり、ハロウィン、クリスマスの飾り付けを職員とともにしている姿が楽しんでいらっしやる印象を受けました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では希望される場所や外部者との外出は殆どありませんでした。1度ご利用者の実姉がなくなりご家族責任の下弔問に出掛けられました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもっていらしたご利用者がいますが、最近ではゴミ箱にお金が捨てられているときもあり使えるような支援は難しくなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子どもの嫁からお手紙がきます。ご本人にお渡しし読んでいただき感想を話されます。電話は難聴が酷く理解もできないので断念しました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにタペストリーを替えたり七夕飾りやクリスマスの飾り、誕生日お祝いの写真を壁に貼り回想法に役立っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファが置かれテーブル席から離れて食事やおやつを食べられるご利用者も居ます。以外はコミュニケーション能力や気の合いそうなご利用者通しが隣になるよう席の配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇が置いてある居室、亡き息子の位牌が置かれた居室、ご家族や孫の写真が飾ってあるお部屋もあります		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御自分からトイレに行かれる方は、居室から出るとトイレと書かれた大きな表札が置かれ場所の混乱を招かないように配慮しています		